

保育技術の改善



松村康平

保育技術の改善は、保育の場において、常におこなわれていなければならぬ。保育技術は、保育の場において、今・ここで・絶えず・新らしくなっていなければならない。それは、保育の場における保育活動が進展していくのに有効な技法であるとともに、保育活動の発展に規定されて、保育活動がより発展するのに役立つ技法となるように、絶えずつくりかえられていなければならない。

保育活動には、「方向」と「道程」がある。この方向と道程は、保育活動に参加するものの関係のしかたに規定されている。この関係のしかたの変化が、方向と道程を規定しながら、保育活動を進展させていくともいえるであろう。むしろ、関係自体の発展が、保育

活動の発展として現われるのだともいえる。このような立場から、保育技術の改善について考えてみよう。

保育技術は、保育活動に参加するものの関係のしかたを進展させる技法である。これは、保育活動の発展の方向に、保育活動に参加するもののあり方（発展の道程）を規定していく手段である。しかし、この発展の方向は、道程の変化に規定される。だから、保育技術は保育目的を実現するための手段であるというようには、いい切ることができない。

保育目的と保育技術との関係は、次のようにとらえよう。保育目的がなければ、保育技術は活かされない。しかし、保育目的を実現

させるためのみの保育技術ではない。保育技術の展開による保育活動の発展が、保育目的を規定して、新しい保育目的の設定を可能にするからである。保育目的と保育技術とは、保育活動に即してとらえるべきものであって、その発展の方向に保育目的が、その発展の道程に保育技術が関連づけられる。保育技術の改善は、保育活動の発展の道程に関してなされなければならない。それでは、どのような発展の道程が、保育技術の改善を意味するであろうか。

ここで、保育活動について考える必要がある。保育活動を発展させるものは、保育活動自体であるが、その発展の性質を規定するのは、保育活動に参加するものの関係のしかたである。保育活動に参加するものは、「人」だけではない。教師と子どもたちだけではない。人と人とを媒介し、人との関係で保育活動を促進する「物」もまたそうである。この保育活動に参加するものの関係のしかたを、発展させる技法が、保育技術である。保育技術の改善とは、この関係のしかたの变革を意味している。この变革は、では、どのようにしてもたらされるであろうか。

保育活動に参加する一員としての教師は、参加するものの関係のしかたを变革するのに、しばしば主導的な役割を果たす。それは特に、保育活動の発展の方向を洞察して、意図的に变革をもたらすための行為が、可能だからである。しかし、子どもたちもまた、变革

における主導的な役割を果たす。それはしばしば、保育活動の発展の道程をつくる主体となるからである。また、更に、物も主導的な役割を果たすことができる。多くの場合、物は人を媒介として保育活動に参加するが、参加してからは、発展の道程を制約し、発展の方向を転換させることなどにおいて、变革に参与する。

保育活動に参加するものの関係のしかたの变革は、主として、そのときどきで保育活動の発展に異なる役割を果たす教師と子どもと物との関係のしかたの变革である。保育技術の改善は、この变革をもたらすものでなければならない。従来、保育技術の改善は、保育者（教師）が保育目的を実現するために被保育者（子ども）に働きかける技術の改善を意味することが多く、そのための教材の工夫が問題にされてきた。だが、ここでは、保育活動を発展させる関係から、その関係のしかたの变革において、保育技術の改善を問題にする立場をとっているのである。特にその発展の道程に関連づけて、保育技術の改善を問題にしようとしているのである。

このような保育技術の改善に必要な条件は何か。次に考えてみよう。

保育活動に参加するものの関係のしかたを体験的に把握すること（関係体験と関係認識）。保育活動の発展の方向を洞察して、保育活動の道程を意図的に操作すること（関係洞察と関係操作）。この必

要条件をみたすことができるのは、多くの場合、保育活動に参加するものの一員としての教師である。しかし、教師が必ずしも常にこの条件をみたすことができるとは限らない。それぞれの条件をみたすためには、更に、次のようなことが必要なのである。

関係体験の必要。保育活動の発展に参加して、発展をもたらす関係の変動を体験していかなければ、保育技術の変革者であることはできない。関係の変動を体験することは、変動に即して態度を変えることができなければ不可能であろう。たとえ、保育活動に参加してきた年限が長くても、それが参加の態度を硬くしては、変革者の資格をかえって少なくなることになるだろう。そうなつては、常におこなわれなければならない技術改善の必要性も、余り感じられなくなつてしまうかもしれない。時には、関係の変動に遅れたりズレる体験の悲哀を感じているのかもしれない。関係の変動の担い手でありそれを規定もする「物」の変化、たとえば、ラジオ・テレビの普及がもたらす保育活動における関係の変動からは、教師が、関係体験のできないために落されて、そこでの保育技術の改善がおこなわれないままに、しばらく過ぎてしまつたりする。教師は進んで、新しい文化財と関係体験を結び、可変的な態度の養成につとめなければならない。可変的な態度の養成には、例えば、心理劇におけるような役割演技が、有効であろう。

関係認識の必要。保育活動に参加するものの関係のしかたの認識は、関係体験をしながらそれをこえて、自分も参加している関係のしかたを認識することなのである。この認識がなければ、関係の変革は困難である。関係体験にもとづく関係の変革がもたらされる可能性はあるが、その変革は一面的にとどまり、それがかえつて関係のしかたをくずして、保育活動の発展を阻むことになつたりする。

望ましい変革には、関係の多面的認識が必要である。この認識は、一者関係的な立場からはできない。しかも、教育熱心な教師に、保育活動を一者関係的立場から把握する者がしばしば見うけられる。これでは、保育技術の改善が、その教師のためにおこなわれることになる。二者関係的立場からも、保育活動に参加するものの関係のしかたの把握は、不十分にしかできない。関係の多面的認識は、三者関係的立場から可能になるといえる。教師とこどもと物との関係、教師とこどもと他のこどもたちとの関係、保育活動に参加するものと発展の方向と発展の道程との関係などのように、三者関係的に把握して関係変革の技法を展開すれば、保育活動の発展がもたらされるであろう。三者関係的認識の成立は、必然的に関係変革の技法をもたらすといえるのである。このような関係認識に到達するためには、例えば、三者面談法が有効であろう。A・B・Cがいて、AがBに何か問題を見いだしたとき、Bに直接はたつきかけ

るのではなく、CにはたらしかけることによってBの問題を解決しようとしたり、三者関係の体験を通して関係認識を深めていくことが、必要であろう。

関係洞察の必要。保育活動の発展の方向を洞察して保育技術の改善をおこなう。発展の方向は、参加している教師の意図によって規定されつくすものではない。教師は、しかししばしば、保育目的をかがけて発展の方向を規定しようとする。そのために、教師の保育活動とこどもの保育活動というように、二分されることにもなる。

保育技術の改善は、主として保育活動の発展の道程に関連づけおこなわれるべきであって、発展の方向を洞察し得た教師が、意図にあわせて関係の変革をおこなおうとすると、発展の道程をつくることにおいて主導的であろうとする。こどもの参加のしかたを、ゆがめることになる。しかし、ここで、どのようなことも観を教師がいだいて関係の変革に参加しているのかを、問題にしなければならぬ。

ここにそれぞれの教師のことも観がもちこまれて、保育技術の改善が導かれねばならない。例えば、幼児を発展可能態として許容し・認識して、明日の社会における発展創造態としての役割が果たせるように、教育しようとするかどうかによって、保育技術の改善も違つたものになるであろう。

関係操作の必要。保育活動の道程を意図的に操作することができ

なければ、保育技術の改善はできない。保育活動に参加するものの関係のしかたの変革が、保育技術の改善を意味しているのである。

道具の使い方や身のこなし方を変える技術の工夫がされて、その道具の使い方・その身のこなし方が変わっても、それが保育活動に参加しているものの関係のしかたを変革することの中に位置づけられて、おこなわれるのでなかったら、それは、これまで述べてきた立場からの保育技術の改善を意味しない。集団指導の技法についての関心が、最近たかまってきたようであるが、この技法の発展は、保育活動に参加しているものの関係を、関係的に把握し・関係的に操作することができるかどうかにかかっている。

これまで、保育技術の改善について、ここでは、保育活動に参加するものの関係のしかたを發展させる技法の改善というようにとらえて、述べてきた。この叙述の基本原理として用意したものは、いわば「関係弁証法」である。この立場からは、関係に内在する契機による関係の発展が、必然的に保育技術の改善をもたらす。しかし、この発展の契機を操作することによって、保育技術改善の必要性をたかめ、関係の発展を促進することが可能である。そして、この促進者の役割を果たすことは、保育活動に参加するものの存在意義（関係責任）につながっている。関係操作は、関係の分裂する危機をとらえ、関係の発展を抑制する要因の発見によって促進される。